



色彩館に咲く

## コダチダリア

*Dahlia imperialis*

キク科ダリア属

原産国：グアテマラからコロンビア原産



### 天高くそびえる大輪花

コダチダリアは、メキシコから中米に分布する27種のダリア属の中で、木質化する3種の内でも特に茎が太くなり草丈が高く、高さ5～8mにもなります。英名で「Tree Dahlia(ツリーダリア)」と呼ばれるように、和名のコダチダリアは、木のようになる「木立」から命名されています。また、葉の様子がタラノキに似ているため、「タラノハダリア」とも呼ばれます。学名の「インペリアリス」は皇帝を意味し、「皇帝ダリア」の名で流通していることも多く、こちらの名前の方が馴染みのある方が多いのではないのでしょうか。

開花期にピンクから薄紫色の一重の直径15cmほどの巨大輪花を群生させて咲かせる姿は皇帝の名にふさわしく圧巻です。白花や八重咲きの園芸品種もあります。

茎の形状は大形の竹状になっており、葉柄

の基部には雨どいのような深い溝が刻まれています。

開花期は通常11月から12月とされ、日照時間が短くなると花芽を持つ短日植物のため、温帯地域では霜の影響でしばしば開花できないこともあるようです。風による倒伏に弱いため、大きく育てるためには支柱が必要になります。

増殖は茎を2～3節で切り、水苔を巻くか、バーミキュライトなどで挿し木をすることで簡単に行えます。

北海道では雪の問題もありますが、耐寒度はZ8～Z11と屋外での越冬はできないため、なかなか大株を目にすることができませんが、色彩館の大温室では今年の春に植栽された株がすくすく育って12月上旬から開花が始まっています。1月は満開で楽しめると思いますので必見ですよ！



## 生演奏 & 特別ランチ

冬期間は土日祝日のみ営業しているバラ園のレストランですが、12月から3月までは月1回1日3公演のランチコンサートを行います。素敵な音楽と美味しいランチはいかがですか？\*悪天候時中止の場合もあります。

1月24日(土) ①12:00~ ②12:30~ ③13:00~ 1,800円

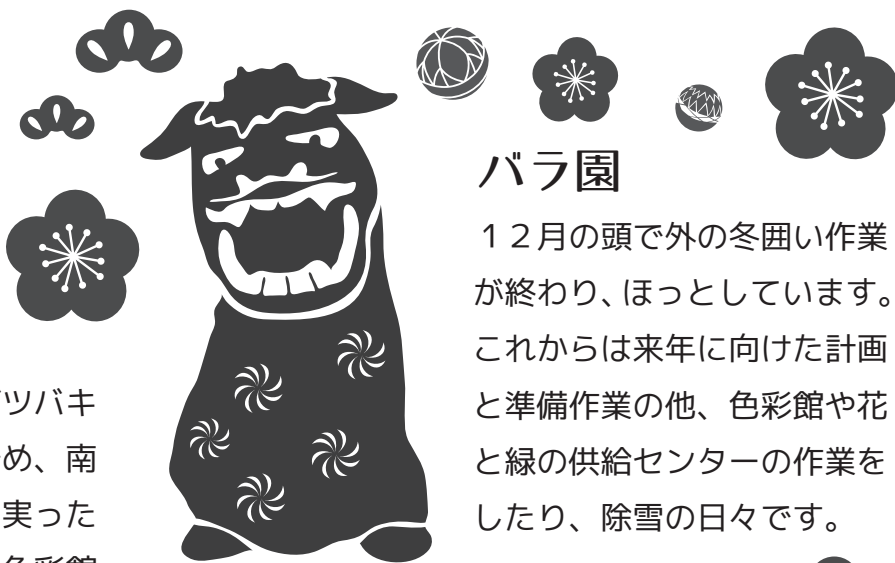
お問い合わせは 札幌本店へ ☎ 050-5798-2196 トラットリア ルッチ **TRATTORIA Lucci**

本年も宜しくお祈りします！



### 色彩館

大温室ではサザンカやヤブツバキの他、皇帝ダリアが咲き始め、南国植物温室では、たわわに実ったレモンが見事です。1月の色彩館の大仕事は高さ4mにまで生長したつるバラの葉むしりと剪定作業。4月の下旬の開花に向けた大切な作業です。室温があるため落葉できない葉をこの時期に落とすことで病害虫の予防にもなります。



### バラ園

12月の頭で外の冬囲い作業が終わり、ほっとしています。これからは来年に向けた計画と準備作業の他、色彩館や花と緑の供給センターの作業をしたり、除雪の日々です。

### 花と緑の供給センター

お正月明けからベゴニア、ゼラニウムの播種作業。発芽して本葉が出たら急いでポット作業と、気の抜けない毎日。丈夫な苗を作るために各ハウスと電熱の入ったテーブルの的確な温度管理はとっても大切。繁忙期の幕開けです。

### あぶり出しの話



コタツにみかんの似合う時季になりました。大人の方は小学生くらいの時にあぶり出しをしたことがあるのではないのでしょうか。なぜ、火であぶることで文字が出てくるのか調べたところ、2つ説がありました。

よしなしごと

1つは、水に溶けた成分があぶられることで酸化などの化学変化が起こり、文字が出てくる。もう1つは、水に溶けた成分によって、その部分の沸点が低くなるため、紙よりも先に文字の部分が焦げて文字が出てくる。という説明でした。

どうやらみかんに限らず、乾いたときに透明にあるものならば、あぶり出しのインクになるようです。火の取り扱いに十分に気をつけ、香ばしい香りにくるまれながら、あぶり出しを楽しんでみてはいかがでしょうか。

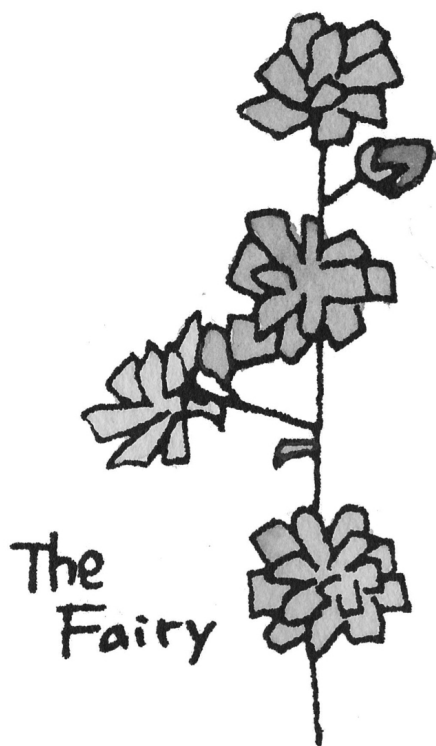
Miz

# ひとつき ひとバラ



文：新堂大樹  
(いわみざわ公園バラ園)

イラスト：藤川志朗  
(イラストレーター)



## 第十回

ポリアンサローズ

### ザ フェアリー

The Fairy

作出国：アメリカ

作出者：Ann Bentall

作出年：1932年

ハーディネスゾーン：Z5

交配：Paul Crampel x Lady Gay

繰り返し咲き性

作出した「Paquette(パクレット)」というバラから始まります。その後改良が進み、ハイブリッドポリアンサローズ、さらには、フロリバンダローズへと発展していくのです。

この品種は香りが微香という点が残念ですが、花付き、花持ち共にとても良く、一番花からほぼ途切れなく秋遅く最後の最後までよく咲き、大変強健で育てやすい品種です。枝変わりの品種もあり、花色がホワイトのクリスタルフェアリーとローズピンクのラブリーフェアリーどちらもザフェアリーの育てやすさを受け継いでいます。また、ザフェアリーを片親に交配した品種も多数あります。ザフェアリーを片親に岩見沢の新しい品種を作出できたら…市内の植栽にぴったりですよ。

ザフェアリーは当園でも栽培していますが、シーズン中の病気は皆無、冬囲いは葉を巻るだけで、結束など何も必要ありません。管理する方としても、どの季節でも手間がかからず育てやすいというのはありがたいものです。北海道でバラを栽培するなら耐寒性と共に耐雪性と強健性は大事なポイント、ですね。

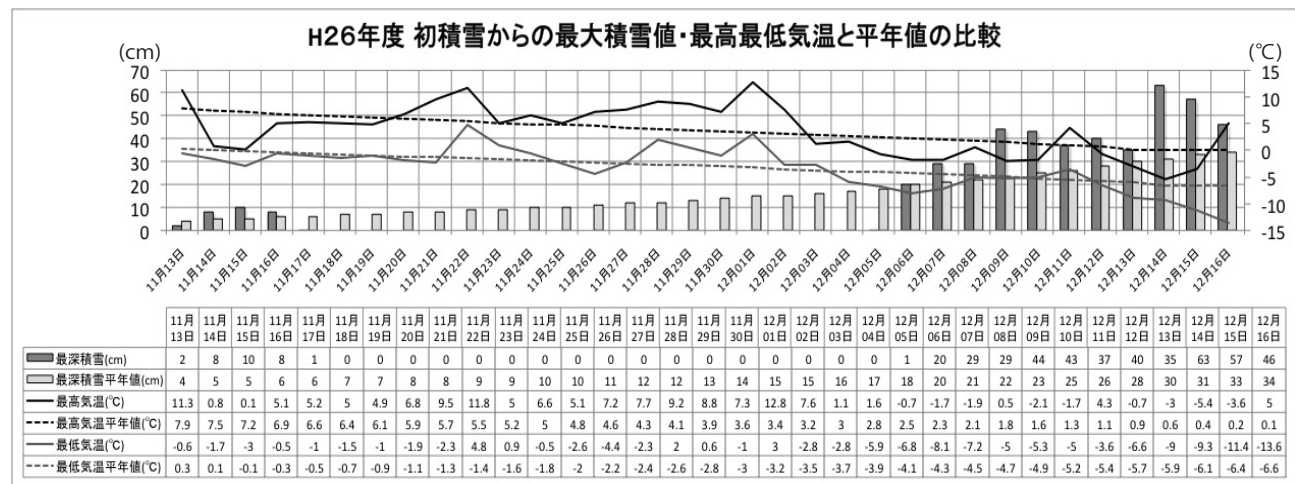
愛らしいピンクの花色をした小輪房咲きで、枝の先に小花を円すい状にみっちりつける花穂は大変見事です。咲き始めの色は、濃いピンクでだんだんと淡くなっていきます。この品種はグランドカバーローズの代表品種でもあり、枝を横に横に伸ばします。最大樹高60cmと上には殆ど伸びませんが、油断すると1株で周囲数メートルを覆い尽くしそうな勢いで伸び、小さく細長めの照葉をわさわさと茂らせます。

ポリアンサローズ(略号：Pol)は、小輪房咲きの、病気・暑さ・寒さに強い育てやすい系統で、繰り返し咲き性です。日本に広く分布する原種である「ノイバラ」と、中国の原種である、コウシンバラの矮性品種「ヒメバラ(*R. chinensis* var. *minima*)」との交配から発展しました。ポリアンサローズの誕生はハイブリッドティーローズの第一号「ラ・フランス」を作出したことも有名なフランスのギヨーが1872年に



西洋の花というイメージが強いバラですが、実は中国、ヒマラヤ、北アフリカ、ヨーロッパなど、北半球の広い範囲に分布しています。特にアジア圏には多くの野生のバラがあり、日本には10数種<sup>ひたちのくにぶどき</sup>の原種が自生しています。バラは、古くから「万葉集」や「常陸国風土記」の中で『<sup>うまら</sup>荊』や『<sup>うばら</sup>茨』という名前で登場しています。明治時代に入るまでは、種の区別はあまりされていなかったようですが、バラは今も昔も日本人にとって初夏を彩る身近な花なのですね。

小さくて見づらいたですが、初積雪から約1ヶ月間の最大積雪値と平年値の比較、それと最高最低気温と平年値を比較してグラフ化してみました。今年は平年に比べて根雪になったのは遅かったですが、今のところ平年よりも多い積雪で推移しています。昼夜で気温差も平年よりも大きいので、事故や体調管理に十分気をつけたいですね。これらのことはバラ園のバラにはどのように影響してくるのでしょうか。要観察です。



## 1月の市民園芸講座のご案内



- 1月11日(日) 13:00~15:00 春に向けて種をまこう  
有料: 500円 定員: 15名 講師: バラ園スタッフ
- 1月18日(日) 13:00~15:00 折バラを楽しもう 上級  
有料: 300円 定員: 15名 講師: バラ園スタッフ
- 1月25日(日) 13:00~15:00 早春をたのしむ盆栽  
有料: 2000円 定員: 20名 講師: 君島 信博さん 草つ月主宰
- 2月20日(金) 13:00~15:00 土壌と肥料管理のポイント  
無料 定員: 40名 講師: 普及指導員 農業改良普及センター